

令和 3 年度
学校評価報告書

四天王寺高等学校
四天王寺中学校

学校評価に関して

四天王寺高等学校
四天王寺中学校
校長 稲葉 良一

学校評価の目的の第一は、学校が教育活動および学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることです。次に学校評価の実施・結果の公表によって、学校を地域に開かれたものとし、魅力ある学校づくりのために家庭や地域社会との連携を深めていくことです。そして設置者（私立学校においては理事会）が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備などの改善を講じ、教育水準の保証・向上を図ることとされています。

学校評価の実施手法としては次の３段階となります。

- | | |
|-------------|---|
| (１) 自己評価 | 教職員が行う評価 |
| (２) 学校関係者評価 | 保護者、地域住民等の学校関係者などにより
構成された評価委員会が、自己評価の結果に
ついて評価することを基本として行う評価 |
| (３) 第三者評価 | 学校と直接関係を有しない専門家等による客
観的な評価 |

本校は平成２０年４月に学校評価検討委員会を設置し、同年１２月より「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価の「自己評価」を開始いたしております。平成２２年１月末より「生徒による学校評価」を行い、さらに平成２２年１１月より「生徒による授業評価」を始めることになりました。

本年度（令和３年度）も、例年通り保護者の代表である後援会実行委員の皆様「自己評価」、学校評価検討委員会の「自己評価分析」「生徒による学校評価」を検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「生徒による学校評価」「生徒による授業評価」、そして「学校関係者評価」を真摯に受け止め、聖徳太子様の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

学校教育と学校評価

四天王寺高等学校
四天王寺中学校
学校評価検討委員会
委員長 栗岡 司郎

学校評価は、文部科学省の主導の下、教育全体を見つめ直そうという意図で実施されてきました。その眼目は生徒・保護者・教員が三位一体となり、生徒がよりよい教育を享受できるようにという点にあります。この目的のために、学校設置者は教育活動の成果を検証して組織的・継続的に改善を図り、学校設置者および保護者も含めた学校づくりを進めていくことが重要となります。

上記方針の下、本校の「学校評価」の取り組み・実施は平成 20 年 4 月以来、14 年が過ぎ、令和 4 年 4 月で 15 年目を迎えようとしています。

具体的に学校評価とは

目標設定 (Plan) → 取り組み (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

という PDCA サイクルを指し、より良い教育活動に向けて毎年展開し、改善を図っていくというものです。

従って「評価」はもちろん評価自体に目的があるのではなく、将来にわたって学校が充実した教育活動を実施できるように、また学校が常にあらゆる場面で活動的であるために、その手段として評価するものであります。

本学園ではこの取り組みに際し、教育方針（目標）を基として、上記のサイクルを実施して学校評価を行って参りました。また実情に合うよう 28 年度にはアンケート項目の大幅改訂も実施しました。

今年度（令和 3 年度）につきましては、前年度に引き続く新型コロナウイルスに対する対応として ICT 機器やオンライン授業に対応する環境の充実がさらに求められる中、生徒の PC 導入につきましては、中学、高校の 6 学年すべての学年での整備が完了し、コロナ感染の感染拡大から登校に不安を感じる生徒に対する、授業の定点配信の拡充なども行いました。

これにともない、アンケート対象の学年を、高校は大学入試などを控えた 3 年生を除く 1, 2 年生の 2 学年、中学は 1 年生から 3 年生の全学年の合計 5 学年に広げ、11 月中旬から 12 月中旬の調査期間で実施しました。アンケート項目の文言は、昨年度に引き続きコロナ感染症対応を踏まえた調整を加えています。

報告にあたり、大勢の方々のご協力のもと、令和 3 年度のご報告が出来ますことを御礼申し上げますとともに、本報告が本校における教育の改善・充実につながる資料となり、また今後も関係の皆様のお力添えを頂けますことを、心からお願い申し上げる次第です。

1. 教育目標

四天王寺学園の設置母体である四天王寺は、推古元年（593年）、聖徳太子によって建立された日本仏教最初の大寺である。聖徳太子は四天王寺で仏教精神を礎とし、世の中の平和や繁栄の実現に貢献すべき人間育成を大志とした「四箇院の制」（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられた。その敬田院が、慈悲救済を使命として生きる、立派な人格者を育成するという教育事業にあたる。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育目標である。

聖徳太子の和のご精神を礎とする信念ある女性の育成をはかる。

- （１）円満で深い人間性をそなえた女性を育てる。
- （２）将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力を養成する。
- （３）個性を充分伸長できる教育を行う。

2. 中期的目標 ～P l a n～

- （１）学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る。
 - （ア）学力の向上を通して冷静で柔軟な思考力を身につけさせる。
 - （イ）毎日の活動や部活動・学校行事などを通じて協調性を育成する。
 - （ウ）上記を通して四恩に報いる心、感謝の心、他を思いやる心を涵養する。
- （２）学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する。
 - （ア）教員の指導力、授業力のさらなる向上をめざし、保護者・生徒の信頼に応える。
 - （イ）規律ある学校生活のもと、自主的・能動的に取り組める生徒を育成する。
 - （ウ）学力の定着を図る小テスト・確認テストなど適宜実施する。
- （３）生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う。
 - （ア）進路指導部と一体になった教員の研究会・講習会参加を通して、十分な情報・知識の習得に努める。
 - （イ）的確に生徒・保護者に情報を発信し、生徒・保護者の信頼に応える。

- (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る。
 - (ア) 欠席・遅刻に対する対応をきめ細かく行う。
 - (イ) 登下校時の合掌・礼拝を励行させるよう心の教育を行う。
 - (ウ) 他に誇れるような、通学時のさらなるマナーの向上を図る。
 - (エ) 常に時間を守ることの大切さを意識させ、基本的な生活習慣の継続・維持を図る。
- (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う。
 - (ア) あらゆる機会を通して人権教育・学習を実践し、人権尊重の精神を涵養する。
 - (イ) いじめを許さず、保護者・教員・生徒全員でこの問題に取り組む学校作りを目指す。
- (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる。
 - (ア) 防災体制を十分理解し、生徒の安全管理の徹底を図る。
 - (イ) 防災意識を高める教育を行う。
 - (ウ) 救命講習の機会を定期的に設ける。
- (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する。
 - (ア) 教科指導の向上をめざし、しかるべき研修に参加する。
 - (イ) 生徒指導上の知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加する。

3. 項目における目標指数

今年度、基本とする目標指数（評価点）は 4.5 以上

なお、4.5 を必要としないと考えられる項目に関しては、その点を考慮しつつ分析を行うこととする。

※評価点（指数）の算出方法：

$$\begin{aligned} \text{評価点} = & 5 \times \text{A 当てはまる(\%)} + 4 \times \text{やや当てはまる(\%)} \\ & + 2 \times \text{C あまり当てはまらない(\%)} + 1 \times \text{D 当てはまらない(\%)} \end{aligned}$$

令和3年度 本年度の取り組みに対する教員自己評価集計結果と分析

回答教員人数 : 138名

今年度の 重点取組目標 ～P l a n～	質問 NO	具体的な取組・内容 評価内容 ～D o～	評価点 (指数)		A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない			
			令和 2年度	令和 3年度	A	B	C	D
(1)学習や様々な 体験を通して和 の精神を学び、 人間的成長を図 る	1	毎日の学校生活が生徒の心の成長に繋がるよういつも心がけ、はたらきかけている。	4.6	4.7	71.0%	26.8%	2.2%	0.0%
	2	授業では生徒が深い関心や興味を持ち成長できるよういつも取り組んでいる。	4.7	4.7	74.1%	25.2%	0.7%	0.0%
	3	塔影祭（体育祭・文化祭）や部活動において、生徒の力を十分発揮させることが出来ている。	3.2	3.6	30.7%	41.6%	13.9%	13.9%
	4	和光館における講話を生徒に積極的に聴かせるよう指導できている。※今年度は教室でのZoom配信が中心	3.6	3.9	44.4%	33.1%	9.0%	13.5%
	5	生徒会活動や部活動などいろいろな有意義な活動への参加を呼びかけている。	3.8	3.7	34.1%	40.0%	17.0%	8.9%
(2)学びの喜びを 理解させ、将来 に力強く雄飛し 得る学力を養成 する	6	授業に際しては十分な教材研究をいつもしている。	4.6	4.7	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%
	7	応用力思考力がつくよう授業にいつも工夫を凝らしている。	4.5	4.5	53.3%	43.7%	3.0%	0.0%
	8	適宜小テストなど使い学習事項の定着を図っている。	3.7	3.8	42.5%	29.1%	24.6%	3.7%
	9	授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い。	4.2	4.2	33.3%	60.7%	4.4%	1.5%
	10	授業でI C T機器を活用している。	3.6	3.8	46.7%	26.7%	16.3%	10.4%
	11	授業は規律正しくできている。	4.6	4.6	65.2%	34.1%	0.0%	0.7%
	12	授業の進度は適切である。	4.7	4.5	54.8%	41.5%	3.0%	0.7%
	13	生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている。	4.0	3.9	23.0%	62.2%	14.1%	0.7%
	14	副教材など適切に活用できている。	4.4	4.3	54.8%	35.6%	6.7%	3.0%
	15	遅進者に適切なアドバイスや支援など、積極的に取り組んでいる。	4.0	3.9	31.9%	45.9%	20.0%	2.2%
	16	生徒に能動的な学習に向けたアドバイスができてい	4.2	4.2	41.5%	47.4%	9.6%	1.5%
(3)生徒個々人が 個性を充分伸長 できる情報発信 や教育を行う	17	生徒の希望、疑問、不安などに対してよく耳を傾け、アドバイスを適切に行っている。	4.5	4.5	55.1%	42.0%	2.9%	0.0%
	18	成績資料や模試結果などを生徒に対して適切に効果的に利用できている。	3.7	3.5	26.3%	41.4%	22.6%	9.8%
	19	キャリア講座を始め、あらゆる情報を生徒保護者が利用できるよう徹底している。	3.1	3.1	17.2%	42.5%	18.7%	21.6%

教員自己評価集計結果に対する分析 ～C h e c k～

(1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る

質問 1, 2 は教員の心構えというべき項目で、自己評価とはいえ指数は 4.5 以上で好ましく、この状態を維持できるようにしていきたい。

質問 3 については、昨年度は、体育祭は中止、文化祭はオンライン開催であったのに対し、今年度は体育祭・文化祭は制約があったものの実施することができたことで、指数は前年度より 0.4 ポイント改善されているが、依然、指数は 4.0 を下回っている。質問 4, 5 についても機会のある毎の指導となることになるためか例年、指数は 4.0 を下回っている。ただ、複数の非常勤教員から学校行事関連の質問 3～5 をはじめ、いくつかの項目について、「回答しづらい」「主たる業務が教科

指導になるため、『C』、『D』を選ばざるを得ない」などの意見が寄せられたことを受け、検証として今年度の結果について専任・常勤教員のみを抽出して質問 3, 4, 5 の指数を算出したところ、それぞれ 4.0, 4.4, 4.1 となり、学校行事の指導を主に担う教員においては、指数が 4.0 を上回っていることが明らかになった。(質問項目 18～24, 27～29 においても、同様の傾向が見られる。)

次年度に向けて、質問項目の検討が必要と考える。ただ、学校行事は教科指導と共に、学校における活動の根幹となる重要な位置にあるものとして、非常勤教員も含めたすべての教員が学校行事を通して「生徒の人間形成に携わる」という気持ちをもって積極的に関わるようなシステムの構築が求められる。

(2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する

質問 6, 7 および 9 は、例年、生徒学校評価の 5, 6 との指数のひらきが懸念される項目である。教員の側は、授業にあたり十分に準備をし、工夫をしていると認識している。一方、これに対応する生徒学校評価の項目 6「総合的に考えて授業に満足していますか」については、昨年度に引き続き満足度が向上し、教員評価との開きは小さくなっている。今後、さらに生徒の授業満足度の指数を目標値の 4.5 以上にするためには、教員が「科目の目標に基づいた十分な準備と工夫を行い、授業が教員の独善や押しつけとならないよう絶えず振り返りと検証をし、研鑽に努める必要がある。

質問 8 は小テストを必要としない科目もあることも考慮に入れると、妥当な数値かと思われる。

質問 9 は、昨年度に引き続き質問内容に「満足度」の観点を加えたが、昨年度と同じく指数は 4.2 であった。この値は授業での教員の『手応え』であって、確たる裏付けのある数値では無い。実際に生徒の満足度を確認しながら授業を進めるためには、さらに客観的な確認の工夫が必要と思われる。

質問 10 の指数は 3.8 ポイントでまだ 4.0 には達していないものの、一昨年度、昨年度より上昇しており、教員の ICT 機器を「活用」する力などが徐々ではあるが向上しているものと考えられる。これに対応する生徒学校評価の項目 5「授業で、ICT 機器の利用も含めて、教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多いと感じますか」については、高校、中学ともに昨年度より 0.5 ポイント向上し、指数は高校で 4.0、中学で 4.2 となっている。今後、授業における双方向の発信が効率的に可能となれば、上記の「裏付けある『手応え』」の確認にもつながるであろう。

質問 11, 16 については昨年度と同等であるが、12, 13, 14, 15 については、それぞれ昨年度より 0.1～0.2 ポイント低下している。今年度は教室での授業時に、新型コロナの感染不安などで登校できない生徒に向けた Zoom を活用した定点配信も同時に行ったことや、ICT 機器を導入したものの使用方法に不慣れなことによって、授業中に生徒の状況を十分に観察し臨機応変に対応する余裕がなくなっていないかなどについても検証し、改善していくことが必要である。あわせて、教員の負担の軽減につながるサポートも必要と考えられる。

(3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う

質問 17 は目標値を維持している。今後も同じように対応したい。

質問 18 は、PC の導入、Classi の活用、各種資料や説明会のオンライン化の進展などの状況に対応して、すべての教員が進路指導部と連動して取り組むことが必要な今後の課題である。

質問 19 は、キャリア講座の取り組みや進路に関する情報提供が、進路指導部から Classi などを利用して生徒・保護者に直接、連絡配信ができるようになったことで、多くの教員はそれをサポートする立場に変化したため、指数が高くならなかったものと思われる。

今年度の 重点取組目標	質問 NO	具体的な取組・内容 評価内容	評価点 (指数)		A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない			
			令和 2年度	令和 3年度	A	B	C	D
(4)規律正しい生活習慣の維持・継続を図る	20	正しい制服・頭髪などについてしっかり指導している。	4.0	4.1	38.4%	47.8%	9.4%	4.3%
	21	欠席・遅刻に対してきめ細かく対応している。	4.0	4.1	41.6%	46.0%	8.0%	4.4%
	22	登下校時の合掌・礼拝を機会がある毎に励行させる指導を行っている。	3.8	3.8	42.2%	31.9%	15.6%	10.4%
	23	通学時の路上や電車内のマナーについて十分指導している。	3.7	3.8	33.8%	41.9%	14.7%	9.6%
	24	校内美化の徹底を図る指導をしている。	4.1	4.0	42.6%	39.0%	11.8%	6.6%
	25	常に時間を守る指導を行っている。	4.4	4.6	61.8%	36.0%	1.5%	0.7%
	26	生徒指導は常に教師全員が情報を共有する意識を持ち、協働している。	4.0	4.0	40.1%	43.8%	12.4%	3.6%
	27	生徒個々人の状況の把握に努め、必要な場合の指導後は生徒のサポートを十分している。	4.2	4.1	37.7%	51.4%	8.7%	2.2%
	28	必要に応じて保護者との連携を十分にとっている。	3.5	3.6	41.2%	28.7%	11.0%	19.1%
(5)様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う	29	学級活動・教科活動で人権尊重の意識を高めるようしている。	4.3	4.2	48.5%	39.0%	8.1%	4.4%
	30	あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。	4.5	4.5	65.7%	29.2%	3.6%	1.5%
	31	問題が発生した場合には教員全員で共有し、保護者との連携を強く意識し取り組んでいる。	4.3	4.1	46.3%	38.2%	6.6%	8.8%
(6)危機管理マニュアルに則り安全の意識を徹底させる	32	生徒への安全管理の広報(AEDの場所・気象警報時の対処など)と徹底を図っている。	3.8	3.5	27.9%	37.5%	22.8%	11.8%
	33	防災意識を高める教育(防災訓練・火災訓練など)を行っている。	4.0	4.1	46.0%	36.5%	12.4%	5.1%
(7)教科指導、生徒指導上の自己の知識やスキルを向上させる	34	教科指導の向上を目指し、しかるべき研修などに参加した。	4.0	3.7	46.0%	21.9%	19.7%	12.4%
	35	生徒指導上の知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加した。	2.8	3.0	24.1%	23.4%	30.7%	21.9%

(4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る

質問 20, 21, 24 はそれぞれ指数が 4.0 前後であるが、各項目はいずれも日頃、教員が生徒と関わる中で常に意識しなければならない内容であり、指数が 4.5 以上になるように一層の努力が必要である。

質問 22, 23 は、やや指数が低い傾向が続いている。この項目については、専任・常勤教員を抽出した指数は 4.2, 4.1 であるので、教員個々によって指導する機会の有無に違いがあることが指数の低い理由と考えられる。ただ、すべての教員で共有すべき認識として、登下校も含めたすべての学校の活動の場面において、実際に指導の必要がある状況になれば、生徒にきめ細かい対応をするという意識を持っておくことが求められる。

質問 25 は、前年より指数がさらに向上して 4.6 となっており、時間を守る指導は行きとどいていると判断できる。

質問 26, 27, 28 も、必要な状況になれば、その都度対応できていると判断してよいと思われる。質問 28 は、専任・常勤教員での指数は 4.2 であった。非常勤教員の場合、保護者への対応は学級担任などを經由しての対応になることが多いことがその理由であろう。

(5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う

質問 29, 30, 31 の「人権教育・人権学習」に関する指数については、30 では目標指数の 4.5 に達しているが、29 と 31 で昨年度より指数が若干低下している。人権教育・人権学習や保護者との連携はホームルームの活動が中心になっていることもあり、ホームルーム活動に関わることの少ない教員に「C」「D」の回答があるようである。しかし、人権教育・人権学習は、すべての教員がホームルームだけでなく、教科の指導も含めたすべての教育活動において取り組むという意識をもつように研修などで徹底するように務める必要がある。

(6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる

危機管理に関する質問 32, 33 については、33 は昨年度より改善しているものの、質問 32 では昨年度より指数が 0.3 ポイント低下している。防災に関する広報などの活動を学校としての「取り組み」としてとらえ、指示を受けたら行動するという受け身の意識があるのかもしれない。実際の非常事態においては、教員個々が組織の一員として率先して適切な対応ができることが求められるため、平時から意識を高める研修等が必要である。

(7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する

質問 34 の指数は昨年度よりも低下している。コロナ感染症拡大の影響を受け、教科指導に関する研修会をはじめさまざまな研修会が中止、延期になったことや、感染予防のために参加を控えたことなども影響していると考えられる。また質問 35 の指数は昨年度よりは上昇したものの 3.0 ポイントとまだまだ十分とはいえない状況である。最初に分析したように「常に自己を反省し、また研鑽に努める」ためには、教員自ら積極的に研修に参加するなどの意識改革が求められる。また、学校組織として研修会に参加できる体制、環境を整えるなどのバックアップも必要である。

(本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目) ～Action～

- (一) 教員は、真摯に教育活動に取り組む姿勢を堅持しつつ、独善や押しつけに陥ることの無いよう、常に自己を省みる意識が必要である。
- (二) 今後導入が進む ICT 器機や生徒の PC に対応した授業が展開できるよう、研修や情報交換をしっかりと行う必要がある。
- (三) 教員は教科指導にとどまらず、生徒の学校生活、風紀、生徒指導のあらゆる場面で適切な指導ができるよう、積極的な関与と細かな心配りを欠かしてはならない。
- (四) 必要に応じた面談や、また Classi を活用した生徒や保護者の方との意思疎通を充実させる必要がある。
- (五) ICT 機器の研修会以外にも、教科指導・生徒指導・学校安全等の研修会へ、日頃の忙しさにかまけることなく意識を高めて参加する必要がある。

令和3年度 生徒学校評価アンケート集計結果と分析

実施学年[回答人数]：高校763名(高二[361名]高一[402名])：中学951名(中三[292名]中二[343名]中一[316名])

評価点（指数）の計算式：Aの人数割合(%)×5+Bの人数割合(%)×4+Cの人数割合(%)×2+Dの人数割合(%)×1

A:はい B:どちらかといえばはい C:どちらかといえばいいえ D:いいえ

※指標の数値が高いほどその項目について望ましい評価であるが、一部項目（18, 21）については数値が低いほど望ましい評価、またどちらとも言えない項目(24, 25, 27, 29など)があることにご留意ください。

NO	質 問		評価点(指数)		A	B	C	D
			令和 2年度	令和 3年度				
1	学校では何事にも前向きに取り組んでいますか。	高校	4.1	4.2	39.3%	50.7%	9.3%	0.7%
		中学	4.1	4.2	38.8%	52.1%	8.3%	0.8%
2	学級活動や学校行事，また部活動に積極的に取り組んでいますか。	高校	4.2	4.3	49.9%	39.2%	9.5%	1.4%
		中学	4.1	4.3	51.0%	39.5%	8.1%	1.4%
3	予習・復習等は十分していますか。	高校	3.4	3.6	16.8%	55.0%	23.7%	4.5%
		中学	3.6	3.8	21.9%	58.0%	17.7%	2.4%
4	課題や宿題はきっちり提出していますか。	高校	4.5	4.4	57.4%	36.3%	5.3%	1.1%
		中学	4.4	4.2	47.4%	41.5%	9.3%	1.8%
5	授業で，ICT機器の利用を含めて，教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多いと感じますか。	高校	3.5	4.0	36.3%	49.1%	12.3%	2.2%
		中学	3.7	4.2	45.3%	41.5%	11.6%	1.6%
6	総合的に考えて授業に満足していますか。	高校	3.9	4.1	37.0%	52.4%	8.5%	2.1%
		中学	4.0	4.3	47.9%	44.7%	6.5%	0.8%
7	和光館における講話（今年度は教室でのZoomによる受講が中心でしたが）をしっかり聴いていますか	高校	3.7	4.0	39.6%	43.4%	13.5%	3.4%
		中学	4.1	4.1	40.8%	44.1%	12.4%	2.6%
8	自分の進路に関してしっかり考えていますか。	高校	4.1	4.2	46.8%	41.3%	9.6%	2.4%
		中学	3.5	3.4	25.8%	36.6%	30.4%	7.3%
9	進路(中学は学習相談)について先生とよく相談しますか。	高校	2.6	2.8	10.7%	32.5%	39.7%	17.0%
		中学	2.1	2.5	10.0%	22.0%	40.2%	27.8%
10	進路について保護者の方とよく相談していますか。	高校	4.0	4.1	47.2%	36.3%	13.2%	3.3%
		中学	3.5	3.4	24.9%	37.2%	28.8%	9.0%
11	先生や保護者以外では誰と進路について相談しますか。あれば書いてください。ない場合は「なし」と記してください。	高校	(記述)					
		中学	(記述)					
12	正しい服装や頭髪を心がけていますか。	高校	4.7	4.8	80.7%	17.2%	1.8%	0.3%
		中学	4.7	4.8	82.9%	14.9%	2.1%	0.1%
13	安易な遅刻や欠席をしないよう心がけていますか。	高校	4.8	4.8	84.9%	10.9%	3.7%	0.5%
		中学	4.7	4.7	81.8%	14.1%	2.9%	1.2%
14	登下校時の慈母観音様への合掌礼拝を励行していますか。	高校	4.7	4.8	83.7%	13.4%	1.7%	1.2%
		中学	4.8	4.8	88.0%	10.1%	1.6%	0.3%
15	登下校時のマナーに気を付けていますか。	高校	4.6	4.8	77.8%	21.5%	0.5%	0.1%
		中学	4.7	4.7	69.8%	28.8%	0.9%	0.4%
16	教室の整理整頓・美化に努めていますか。	高校	4.2	4.3	49.7%	42.1%	7.9%	0.3%
		中学	4.3	4.3	48.4%	41.8%	8.3%	1.5%
17	授業の始まりなど，時間を守るよう心がけていますか。	高校	4.6	4.6	67.3%	29.5%	2.9%	0.3%
		中学	4.6	4.6	64.3%	32.9%	2.3%	0.4%
18	クラスやクラブ活動でいじめを感じたことがありますか。	高校	1.1	1.2	0.8%	2.1%	5.9%	91.2%
		中学	1.2	1.2	0.8%	3.0%	7.4%	88.8%
19	(18)でいじめを感じたことがあると答えた人だけ答えてください。それは解消されましたか。	高校	2.8	4.2	53.3%	33.3%	6.7%	6.7%
		中学	2.5	3.6	37.1%	28.6%	28.6%	5.7%

設問（設問 11）の主な回答

◆ 先生や保護者以外では誰と進路について相談しますか。あれば書いてください。

友達，先輩，塾の先生，姉・兄

生徒学校評価アンケート集計結果に対する分析

1, 2 は、高校、中学ともに、指数が昨年度より上昇しており、アンケートを実施したすべての生徒が、いずれも日々の学校生活に前向きに取り組んでいることが十分にうかがえる。

3, 4 は日々の学習状況に関する内容となるが、3 の「予習・復習」については指数が中学 3.8, 高校 3.6 であるのに対して、項目 4 の「課題提出」については中学 4.2, 高校 4.4 となっている。本来、課題・宿題も予習や復習に含まれていることから考えると、生徒にとっては「指示された課題や宿題には取り組む」ことができているが、「自分からすすんで行う予習・復習」ができていないという認識をしていると思われる。自ら問題を見つけて解決する能力や学習する習慣を定着できるように導くことが今後の課題となる。

5, 6 は教員自己評価で取り上げて分析をした授業に関する項目である。

5 は、教員の授業における ICT 機器の活用の自己評価に対応している。生徒の評価は中学、高校とも昨年度より指数が 0.5 ポイント上昇しており、教員の ICT 活用力の向上が評価されているといえるであろう。

6 は一昨年から質問を「総合的に考えて授業に満足していますか」としている。一昨年、昨年と徐々に指数の向上がみられ、今年度は中学、高校いずれも指数が 4.0 を超えている。教員自己評価の質問 9 に表れた教員の思いとの差は小さくなっていることが窺えるが、さらに生徒の満足度を高めたい。そのためには、教員自己評価の分析の繰り返しになるが、「手応え」の確認、それに応じた授業のさらなる工夫が求められる。

7 については、一昨年度まで和光館で行っていた講話が、昨年度に引き続き教室での Zoom を介しての受講となったが、指数は昨年からさらに向上している。今後の行事のあり方を考える上での参考になる結果である。

8, 9, 10, 11 は進路関連である。8 では、高校では進路に関する意識が高いが、中学ではまだ自分の将来像が描けていない生徒が多い様子がうかがえる。特に、今年度は、ようやく中学の新しい環境に慣れたという状況の中学 1 年でもアンケートを実施したため、この傾向は昨年度よりも大きくなっていると思われる。9 では、教員に進路相談をする生徒が少ないという現状が見える。教員の多くは生徒が相談してくればいつでも対応するという態勢ではあるが、生徒が幅広い視野に立って進路を考えることができるよう、これまで以上に積極的に進路に関する情報を提供し、すべての教員が協力してサポートをする体制をつくる必要があると思われる。

10 からは、進路についての相談相手としては、身近な保護者にアドバイスを求めている生徒が多いという様子がうかがえる。また、11 の記述回答では、友人、兄・姉という回答が多かった。

12, 13, 14, 15, 16, 17 は「規律正しい生活習慣」や「マナー」「美化」に関する項目である。昨年と同様、本校の生徒がいかに真面目であるかがよくわかる結果となっている。教員の実感にもちろん合致している。

18, 19 は、いじめに関する質問項目である。18 の指数は中学、高校とも 1.2 と低い値であった。

（値の小さい方が好ましい項目）しかし、18 で A を選択して 19（18 で A または B を選択した場合のみ回答）で「D あてはまらない」の回答が高校で 1 名、中学で 2 名あった。一人でもこのような回答があることに対しては、人権教育部の実施している「いじめに関するアンケート」などとあわせて、人権教育部や生徒指導部を中心とした対応、対策が必要である。

NO	質 問		評価点(指数)		A	B	C	D
			令和 2年度	令和 3年度				
20	あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動していますか。	高校	4.4	4.5	58.8%	36.9%	3.5%	0.8%
		中学	4.4	4.3	49.9%	43.0%	5.7%	1.4%
21	先生からハラスメントと感ずることを受けたことがありますか。	高校	1.5	1.5	2.9%	5.6%	18.6%	72.8%
		中学	1.4	1.4	3.7%	5.0%	13.0%	78.4%
22	校則は守っていますか。	高校	4.6	4.7	72.0%	25.1%	2.4%	0.5%
		中学	4.7	4.7	75.6%	22.2%	1.6%	0.6%
23	校則に改善すべき点があると感じますか。	高校	3.5	3.7	42.4%	28.1%	19.2%	10.4%
		中学	3.2	3.2	33.8%	20.3%	23.7%	22.1%
24	悩み事があった場合、先生と相談していますか。	高校	2.3	2.4	11.7%	19.3%	32.1%	36.9%
		中学	2.0	2.3	11.5%	17.9%	29.5%	41.2%
25	自分自身の健康管理（食事・睡眠など）に注意していますか。	高校	3.6	3.9	36.5%	43.0%	17.1%	3.4%
		中学	3.6	3.8	34.0%	40.1%	20.9%	4.9%
26	校内の食堂や購買をよく利用しますか。	高校	3.5	3.4	29.9%	30.1%	25.6%	14.4%
		中学	3.2	3.7	38.5%	30.5%	22.0%	9.0%
27	図書室をよく利用しますか。	高校	2.0	1.8	5.6%	11.2%	25.7%	57.5%
		中学	2.2	2.0	9.0%	12.3%	28.5%	50.3%
28	自習スペースをよく利用しますか。	高校	2.5	2.5	14.6%	20.2%	28.6%	36.6%
		中学	2.6	2.5	18.1%	16.9%	28.4%	36.5%
29	校内の施設は充実していると思いますか。	高校	3.1	3.3	18.9%	44.0%	26.1%	10.9%
		中学	3.1	3.6	32.7%	37.7%	20.4%	9.2%
30	防災訓練にまじめに取り組んでいますか。	高校	4.1	4.3	50.1%	41.6%	6.1%	2.2%
		中学	4.1	4.4	52.9%	38.8%	7.2%	1.2%
31	校内にある防災器具(消火器)や救命器具(AED等)の場所を知っていますか。	高校	3.1	3.1	22.3%	33.1%	26.4%	18.2%
		中学	3.0	2.6	17.1%	23.0%	27.2%	32.8%
32	AEDの場所を示す張り紙が貼ってあるのを知っていますか。	高校	3.2	3.4	42.5%	19.0%	16.3%	22.2%
		中学	3.2	3.0	36.1%	15.6%	13.6%	34.7%
33	悩み事があった場合、場合によってカウンセラーと相談していますか。	高校	1.6	1.5	4.1%	4.4%	16.2%	75.3%
		中学	1.5	1.4	3.0%	5.0%	13.2%	78.9%

20 は人権尊重の意識に関するものである。高校・中学とも 4.0 以上で大きな問題は無いようであるが、C、D が 0%となるよう、常に人権尊重の意識を持って行動できるように教育を行う必要がある。

21 は、A、B の割合(%)は昨年の値よりは小さくなり改善はしているが、0%になるよう、心せねばならないところである。教員の研修などで意識を一層高める必要がある。

22、23 は、校則に関連した項目である。22 では中学生、高校生とも校則を守る意識が高く保たれていることがわかる。校則は生徒指導部を中心に恒常的に検討を行い、実情にあうように改善を行っているが、これからも気をつけていきたい。

24 および 33 の「悩み」の相談については、先生・カウンセラーともあまり相談されていない。「悩みが無い」ので D を選択しているということならよいのであるが、「悩み」があるのに誰にも相談できていないのであれば問題である。「悩みの有無」も含めた質問にするなど、生徒の状況を更に詳しく把握できるように質問項目を改善したい。

25 の健康に関する内容については、中学、高校とも昨年度より指数は向上したものの、3 点台であり、やや気になるところである。コロナ禍の影響もあって不規則な生活習慣が助長されていることが考えられる。

26、27、28 は生徒の学校施設の利用状況である。26 の食堂の利用が中学で 0.5 ポイントと大きく上昇している。教室よりもパーティションなどで区切られた食堂の方が、コロナ感染のリスクが

少ないと考えて利用する生徒もいるかと思われが、過密な状況にならないよう注意が必要である。

29の「施設の充実」度は昨年度からは向上したものの、相変わらず高くない。以前に生徒が欲している施設を記述式で質問したことがあるが、具体的には「プール」があがったものの他にこれといったものは無かった。「施設の充実」というより「施設の更新」を望んでいるということのようである。中長期計画に基づいた施策が求められるところである。

30の防災訓練への取り組みの指数は前年度よりもさらに向上しており、指数は理想とする4.5に近づいている。このまま指導を続けていきたい。

31, 32の消火器やAEDの場所の認知は、中学で昨年度より低くなっている。今年度は中学1年生を調査対象に加えたことも影響もしていると思われる。入学時のオリエンテーションに組み入れるなどの対策をとることで改善できるであろう。

(本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目) ～A c t i o n～

本年度も高校・中学のそれぞれのアンケートの指数に大きな差がないことから、高校・中学共通として記す。

- (一) 生徒達の能動的な学習が導き出せるよう、ICT 機器やパソコンを活用した新たな学習方法を考えていく必要がある。
- (二) 学校活動のあらゆる機会において、人権を尊重する教育・学習を行い、生徒・教員・保護者が連携して、安心・安全な学校作りを推進する。
- (三) 生徒の安全意識を高めるという点で、防災訓練への取り組み、また消火器やAEDの場所の認知など、万一の場合への対処を生徒一人一人がしっかり自覚するような工夫していく必要がある。

令和3年度 学校関係者評価

四天王寺高等学校・四天王寺中学校後援会
会 長 清 水 高 徳

本年度の学校関係者評価は、以下のとおりです。

学校評価検討委員会は、PDCA サイクルを教育現場に応用し先生方だけでなく生徒たちの感想も把握し教育の改善、充実を図っていることは大いに評価できる。

本年度は、アンケート対象を大学入試を控えた3年生を除く5学年に広げている点、6学年すべての生徒へPC導入が完了し、新型コロナウイルス感染症への対応としてオンライン授業の環境が整備されている点は特に良い。

教員自己評価

先生方の授業に対する準備、工夫をしている評価（質問6）が上がっていることにより、生徒たちの授業への満足度（生徒質問6）が向上している傾向は良い。

規律正しい生活習慣の指導、いじめやハラスメントを許さない意識を徹底していただけていることに感謝したい。

コロナ禍でのICT導入などで先生方の業務に負担が出ていることで質問12,13,14,15の評価が下がっている点が気になる。本来はICTを使うことにより業務の軽減になって欲しい。

生徒学校評価

ほとんどの質問で評価が上がっていることは大変良い。

自分自身の健康管理（質問25）は、昨年より改善しているがまだまだ低いのが気になる。スマートフォンの普及により、子供たちのスマホ依存症による悪い影響（睡眠不足、学力低下等）が世界中で問題になっている。学校と保護者が協力し合って改善を進める必要がある。

総じて、新型コロナウイルスの影響で日々大変な中、教職員の皆様のご努力により生徒たちの評価点が上がっていることに感謝申し上げます。

その中には、評価点の低いものもあるので更なる改善を宜しくお願い致します。

これからのグローバル社会で活躍する人材育成、大学入試においても英語は、重要だと思いますので個別に英語の授業の評価を検討してほしい。

以上